

6月1日から7日は水道週間です

「たいせつに みずはみんなの たからもの」

どこからくるの？ 安全でおいしい私たちの水

蛇口をひねれば、当たり前流れ出てくる水道水。普段の生活に欠かせない水は、どのようにして私たちの手元に届くのでしょうか。今回の特集では、大口町河北にある丹羽広域事務組合水道部の安達恵一さんと磯村英臣さんに、大口町の水道事業について伺いました。（以下、敬称略）



丹羽広域事務組合水道部（大口町河北）

暮らしに不可欠な水を送り続ける

ですね。大口町の水は、どこからきているか教えてください。

磯村 丹羽郡の水源は、地下水が36%、県から買っている水（木曽川）が64%となっています。地下水は、井戸から汲み上げていますが、ありがたいことにとても上質で、そのまま国の水道法の水質基準に適合するため、塩素消毒のみで皆さんのご家庭にお届けできています。

大口町の水道の水は「丹羽広域事務組合水道部」から送られていますね。こちらは、大口町と扶桑町の2町の水道事業を担当されているのですが、

安達 昭和47年に2町の水道事業や簡易水道を統合して「尾張北部水道企業団」が発足しました。その後、平成14年に丹羽消防組合と統合し、現在の「丹羽広域事務組合」となりました。当組合のように、複数の市町村の「水道事業」を一括して担っているのは、愛知県下で4団体しかないんですよ。（他は市町村が「水道課・水道局」の中で運営しています）

2町の水道事業を運営することによって、事務処理やメンテナンスをより効率的におこなうことができる



磯村英臣さん（左）・安達恵一さん（右）

私たちの使う水は、「大口町で汲み上げた地下水と県水が混ざった水」「県水のみ」と地域によって異なるのです。

磯村 はい。そうすることにより、災害など万が一のときに、どちらかの供給が止まってもある程度の水は確保できるようにしています。またお隣の江南市の水道管と3箇所で接続されていて、災害の際には相互に給水できるようになっているんですよ。

安達 丹羽郡の水道が非常事態となった際は、県営水道や江南市の水道管からスムーズに給水できるように毎年訓練をしています。



災害時緊急連絡管



加圧式給水車



仮設風呂用の水 自動的に汲み上げお湯を沸かします

記憶に新しい能登半島地震の被災地支援

1月1日に能登半島地震が起き、現地ではライフラインが深刻なダメージを受けました。丹羽広域事務組合でも、被災地支援に行かれたそうですね。

磯村 はい、各都道府県がさまざまな支援をしましたが、当組合でも1月13日を皮切に、1か月に10日前後ずつ計3回珠洲市と七尾市に給水車を派遣しました。特に珠洲

市へは、大口町と姉妹都市提携を結んでいる島根県松江市が、珠洲市と姉妹都市提携を結んでいる縁もあり、地震が発生した2週間後に2トン給水車で現地入りしました。

令和4年に導入した「加圧式給水車」での給水は、圧力をかけた給水ができ、2000リットルを約5分で給水できるんですよ。珠洲

市は給水車へ水を補給できる場所がなかったため、隣町とを何度も往復して水を運びました。

現地の様子はいかがでしたか。

安達 能登町から先の道路の損壊が

激しく、通常30分ほどの距離が1時間から2時間かかる状態でした。3か月以上たった4月半ばの時点でも、まだまだ道はマンホールが飛び出し、家屋には誰も住んでいない状態です。水道に関しては、水は出るようになりましたが、水

質が復元していないので、一部の地域では依然として飲めない状態でした。（4月現在）

飲み水はもちろん、トイレ、お風呂、洗濯など、水が使えない状態はとりわけ深刻ですね。

安達 断水は衛生環境にも影響し、直接命にかかわります。被災地支援を通して、丹羽郡地区の災害対策に活かせる学びがいろいろありました。

平成7年の阪神淡路大震災以降、災害への備えは必須となっていますが、もし私たちの地域に災害が起こったとき、水道に関しては、復旧はどの程度とみられているのでしょうか。

磯村 災害発生に伴う広範囲の断水時には、他県の給水車からの給水に頼らざるをえないので、この間の飲料水を各自用意しておくことが安心です。必要な量は、1人あたり1日3リットルといわれています。命を守るために、3日間で1人9リットルを目安に備蓄しておいてほしいと思います。

災害発生直後3日間は、給水車による給水活動や被害の正確な把握に努め、4日目以降から徐々に仮設給水栓より生活用水（トイレ、風呂等）を供給できるようになることを目標としています。

有事の際は、水を供給する「給水ステーション」が開設されるのですね。

安達 はい、非常時に応急給水栓から直接飲料水を供給できる、給水

ステーションは大口町内に2箇所設置済みです（大口西小学校、町民会館）。今後、徐々に増やしていきます、最終的に大口町内11箇所を設置する予定です。

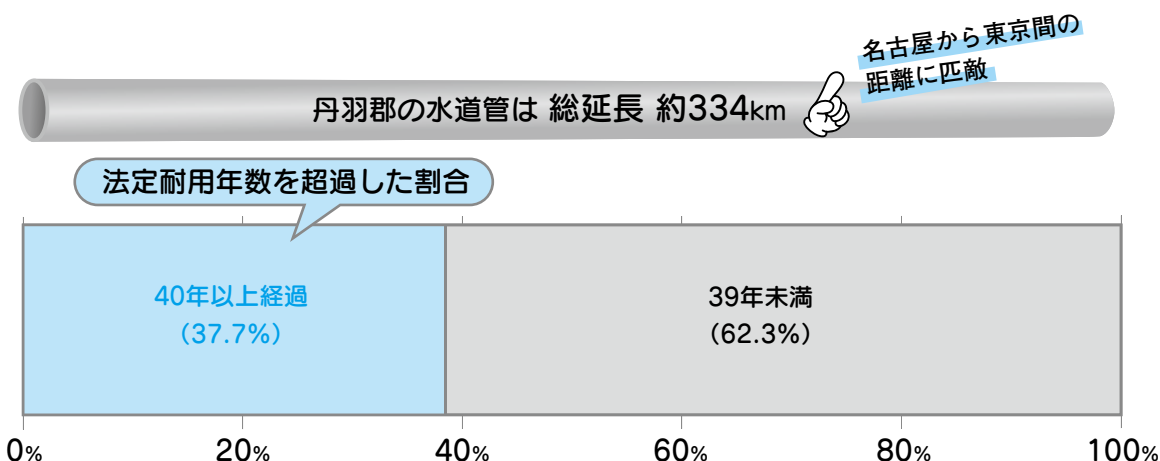
今回能登半島地震の被災地支援に実際に行ってみて、改めて給水ステーションの必要性を実感しました。通水可能な配水管から直接飲料水を確保することのできる給水ステーションを、1日も早く丹羽郡全体に設置できるように努めたいと思います。

水道管の老朽化

安達 災害対策に絡めて重要なのが水道管の耐震化です。水道管の法定耐用年数はおおよそ40年。現在、丹羽郡の水道管の約4割が耐用年数を超えています。徐々に更新を進め、新しい水道管は耐震管を採用していますが、管路の耐震管率は現在全体の約2割にとどまっています。



災害時給水ステーション



昨今、水道管が深刻な危機に直面していると聞きますが…。

安達 そのとおりです。水道事業は、利用者の水道料金で全てまかなう「独立採算制」でおこなうと国の法律で定められています。ところが、近年、水道管の老朽化などの課題が山積している一方で、肝心な収入が大幅に減っているという危機的な状況があります。

どうしてなのでしょう？

安達 家電の節水技術の向上や少子化による人口減少の影響を受け、各家庭の水道料金が減る傾向にあるため水道部の収入が減少を続け

ています。

また、電気料金の高騰も深刻です。水を汲み上げたり配水したりするのに電気を使いますので、電気料金の高騰の影響をもとに受けています。維持する水道管は増える一方で収入は減り続け、さらに老朽化による水道管の更新や耐震化の必要性もあり、事業経営が非常に困難な状態です。

実は、今回の能登半島地震で断水の被害が大きかった理由のひとつに、震源地が過疎化地域であったことがあげられます。民家がまばらな地域は、対人口比あたりの水道の距離が長くなるを得ません。人口密集地域に比べて水道料金収入が少ないにもかかわらずメ

ンテナンス費用は余分にかかり、また耐震化の負担も大きく、遅れがちになります。そのような地域に災害が起こった場合、真っ先にライフラインに甚大な被害が出るのが今回の地震で改めて課題となりました。

当組合では、令和4年に水道料金を15%ほど値上げさせていただいたのですが、令和6年10月に県の水道が値上げされます。当組合の水道は64%を県の水道に頼っていますので、影響は深刻です。今後、も段階的に値上げを余儀なくされるのが予想されます。住民の皆さんには、水道事業をより知っていただき、ご理解をいただけることを願います。

磯村 意外と知られていないのですが、水道の水は、コスト、安全性、環境の面でとても優秀なんです！店で購入するペットボトルの水と比べると、圧倒的に安価で、またゴミも出ず、容器（ペットボトル）の製造や運搬のコストもかかりません。そして、意外と誤解されやすいのですが、市販の水より検査項目が多く、安全性が高い

のです。というのも、水道法により51項目の水質基準をクリアしているのです。みなさんに、どんな安心して水道の水をご利用いただきたいですね！

取材にて

「あって当たり前」「安くて当たり前」と考えがちな水道ですが、普段なかなかその仕組みについて考えることがありません。毎日水を使わない日はないにもかかわらず、地下の見えない場所の水道管に関してなかなか意識することはありません。蛇口の向こうにつながっている見えない水道管が現在、どういう状態で、災害時にどう影響を受けることが想定されるのか、また10年後20年後にどう変わっていくことが予想されるかを、まずは知ることから始めることが肝要だと改めて強く感じました。



耐震性能が高い水道管

